

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		栄養学Ⅰ				学年	1	
講師名			時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標								
一般の方から選手まで、日常からスポーツ現場まで、多くの現場で役立てられる栄養摂取の知識と重要性を身につける。								
講 義 内 容	1	健康と栄養 五大栄養素の役割						
	2	日常生活と栄養						
	3	日常生活と栄養						
	4	栄養指導・保健指導 各疾患に対しての運動指導						
	5	食物と栄養 栄養素とその働き						
	6	食物と栄養 食物の摂取と消化・吸収						
	7	ライフステージと健康教育						
	8	五大栄養素の役割と具体的食品、欠乏症を理解する						
	9	エネルギー必要量と各栄養素の摂取目安量を理解する						
	10	トレーニングと食事の関係から基本的食事を理解する						
	11	トレーニングと基本的食事・水分摂取を理解する						
	12	水分摂取の重要性とその摂取方法を理解する						
	13	時期、目的による区分と栄養・食事のポイント						
	14	競技者に多くみられる栄養障害						
	15	栄養補助食品(サプリメント)について						
	16	終講時試験						
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30							
評価方法		筆記試験による評価						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						単位不認定
使用教材								
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		栄養学Ⅱ				学年	2	
講師名			時間数	15	単位数	2	コマ数	8
授業概要、到達目標								
東洋医学の観点から栄養学を学び、提案できる。								
講 義 内 容	1	現代栄養学と中医栄養学について.						
	2	薬膳とは何か。 五味五性について.						
	3	季節と薬膳(春の薬膳・夏の薬膳).						
	4	季節と薬膳(秋の薬膳・冬の薬膳).						
	5	病気と薬膳.						
	6	病気と薬膳.						
	7	薬膳料理実習.						
	8	薬膳料理実習.						
	9	終講時試験						
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
	16							
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30							
評価方法		筆記試験による評価						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定	
使用教材		食品解説つき八訂準拠ビジュアル食品成分表(大修館書店)						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		トレーナー概論				学年	1
講師名		時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
スポーツ業界でも活躍するために必要なスキルや知識・技術を習得する。また、解剖学・生理学・運動学の復習も行うことにより、習得した知識を再確認する。							
講 義 内 容	1	運動指導の科学					
	2	指導とは～スポーツ選手への指導・指導者の役割～					
	3	指導とは～スポーツ選手への指導・指導者の役割～					
	4	トレーニング法の理論とプログラム①「トレーニング計画の立案					
	5	トレーニング法の理論とプログラム②「筋力トレーニングのプログラム作成」					
	6	トレーニング法の理論とプログラム③「パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成」					
	7	トレーニング法の理論とプログラム④「有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成」					
	8	トレーニング法の理論とプログラム⑤「スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成」					
	9	トレーニング法の理論とプログラム⑥「ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの理論とプログラム作成」					
	10	トレーニング法の理論とプログラム⑦「特別な対象のためのトレーニングとプログラム」					
	11	トレーニング法の理論とプログラム⑧「傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム」					
	12	トレーニング法の理論とプログラム⑨まとめ					
	13	トレーニング法の実際①筋力トレーニングの実際					
	14	トレーニング法の実際②パワー向上トレーニングの実際					
	15	トレーニング法の実際③有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの実際					
	16	終講時試験					
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		筆記試験による評価					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材		3訂版 トレーニング指導者テキスト理論編 3訂版 トレーニング指導者テキスト実践編 トレーニング指導者テキスト 実技編。(大修館書店)					
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		トレーニング理論				学年	2	
講師名			時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標								
スポーツ業界でも活躍するために必要なスキルや知識・技術を習得する。								
講 義 内 容	1	トレーニング法の実際④スピード向上トレーニングの実際						
	2	トレーニング法の実際⑤ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの実際						
	3	トレーニング法の実際⑥まとめ						
	4	トレーニング効果の測定と評価①トレーニング効果の測定と評価の実際						
	5	トレーニング効果の測定と評価②トレーニング効果の測定と評価の実際						
	6	トレーニング効果の測定と評価③測定データの活用とフィードバックの実際						
	7	トレーニング効果の測定と評価④測定データの活用とフィードバックの実際						
	8	トレーニングの運営と情報活用①トレーニングの運営						
	9	トレーニングの運営と情報活用②トレーニングの運営						
	10	トレーニングの運営と情報活用③運動指導のための情報収集と活用						
	11	トレーニングの運営と情報活用④運動指導のための情報収集と活用						
	12	練習問題						
	13	練習問題						
	14	まとめ						
	15	まとめ						
	16	終講時試験						
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30							
評価方法		筆記試験による評価						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						単位不認定
使用教材		3訂版 トレーニング指導者テキスト理論編 3訂版 トレーニング指導者テキスト実践編 トレーニング指導者テキスト 実技編。(大修館書店)						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		スポーツ心理学				学年	1
講師名		時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標 心・技・体という言葉をよく聞くが技術や体力に関しては、目に見えて効果が現れるが、「心」はどうだろうか？練習では出来ているのに、試合では実力を発揮できないという経験はないだろうか？スポーツ場面での心の動きについての基礎知識を学び、スポーツ活動や運動パフォーマンスを促進するために必要な心理的スキルを理解しながら、スポーツ場面特有の心理的現象やその対処法について理解と知識を深める。							
講 義 内 容	1	スポーツと心①スポーツが心理面に与える影響					
	2	スポーツにおける動機づけ 動機づけの役割・やる気を高める方法					
	3	スポーツにおける目標設定 目標設定の原理原則と効果					
	4	最適な覚醒水準とは、自律神経の関係とリラクゼーション・サイキングアップの活用方法					
	5	注意集中の概要と集中力の種類					
	6	集中力が乱れる要因・集中力を高める技法					
	7	イメージトレーニングの概要と活用方法					
	8	思考の種類とそのコントロール方法及び自己効力感との関係					
	9	チームワークとチームビルディング					
	10	コーチングの心理① リーダーシップ					
	11	コーチングの心理② 個人に合わせた対応					
	12	スポーツスキルの習得段階に合わせた指導方法					
	13	効果的なスポーツスキルの指導法と留意点					
	14	スポーツにおける心のコンディショニングと健康・ストレス					
	15	スポーツにおける心の健康と認知行動療法					
	16	終講時試験					
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						

評価方法		筆記試験による評価	
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	単位不認定
使用教材		基礎から学ぶスポーツ心理学 資格に役立つスポーツ心理学ワークブック	
備考			

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		カウンセリング理論				学年	2
講師名		時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
医療現場において多様な背景を持つ来談者に対して、より良い治療を行うためには、適切に話を聴きとり(理解)、心理的安心(信頼関係)を築きながら状況に応じてわかりやすく説明するためにはカウンセリングは重要な技術である。本講義の到達目標は、来談者の現状を理解するためのコミュニケーションを通してカウンセリングについての基礎技術を取得することが目標である。							
講 義 内 容	1	第1章 カウンセリングとは					
	2	第2章 自己理解と他者理解					
	3	第3章 カウンセリング技法と演習 非言語的コミュニケーション					
	4	第3章 カウンセリング技法と演習 言語的コミュニケーション					
	5	第3章 カウンセリング技法と演習 承認と共感					
	6	第4章 個人差 性格差 性差					
	7	第4章 個人差 発育発達 世代間の違い					
	8	第5章 学習理論と認知療法					
	9	第5章 認知行動的カウンセリング					
	10	第6章 心の病気					
	11	第7章 アセスメントと動機づけ					
	12	第7章 アセスメントと目標設定					
	13	第7章 動機づけ面接と演習					
	14	第8章 ロールプレー人間関係価値観					
	15	第8章 ロールプレー人との繋がりにける対応方法					
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		課題(レポート含む)と普段の講義で評価する					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材		プリント使用					
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名	英語					学年	2
講師名		時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
日常会話の習得に力点をおき、外国人に対応できる人材を育成する。							
講 義 内 容	1	Chapter 1 受付					
	2	Chapter 2 病院案内					
	3	Chapter 3 症状(1)痛み					
	4	Chapter 4 症状(2)その他					
	5	Chapter 5 問診(1)既往歴・家族歴					
	6	Chapter 6 問診(2)アレルギー・生活習慣					
	7	Chapter 7 内科(1)身体計測・診察時の表現					
	8	Chapter 8 内科(2)バイタルサインの測定					
	9	Chapter 9 外科					
	10	Chapter 10 検査と処置					
	11	Chapter 11 救急患者					
	12	Chapter 12 整形外科・整骨院(接骨院)					
	13	Chapter 13 リハビリテーション(1)					
	14	Chapter 14 リハビリテーション(2)					
	15	Chapter 15 鍼灸院での治療					
	16	終講時試験(Writing)					
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		筆記試験					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80~89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70~79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60~69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材		※教科書を使用する場合は書籍名を記載下さい ※プリント・テレビ・スクリーンを使う場合も記入お願い致します。					
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名	情報科学					学年	1
講師名		時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
office365を用いて、資料を作成することができ、プレゼンテーションできる。							
講 義 内 容	1	オリエンテーション					
	2	Wordを用いた資料作成					
	3	Wordを用いた資料作成					
	4	Wordを用いたプレゼンテーション					
	5	Wordを用いたプレゼンテーション					
	6	Excelを用いた資料作成					
	7	Excelを用いた資料作成					
	8	Excelを用いたプレゼンテーション					
	9	Excelを用いたプレゼンテーション					
	10	PowerPointを用いた資料作成					
	11	PowerPointを用いた資料作成					
	12	PowerPointを用いた資料作成					
	13	PowerPointを用いたプレゼンテーション					
	14	PowerPointを用いたプレゼンテーション					
	15	まとめ					
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		総合評価					
評 価 基 準	G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材		PC					
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		解剖学Ⅰ			学年	1
講師名			単位数	8	コマ数	60
授業概要、到達目標						
人体の構造と主たる機能について系統別に学ぶ。						
講 義 内 容	1	第1章人体の構成・1細胞				
	2	第1章人体の構成・2組織				
	3	第1章人体の構成・2組織				
	4	第1章人体の構成・3体表構造・4人体の区分と方向				
	5	第10章 運動器系・Ⅰ総論 1 骨格系				
	6	第10章 運動器系・Ⅰ総論 2筋系				
	7	第10章 運動器系・Ⅱ全身の骨格 骨の名称				
	8	第10章 運動器系・Ⅱ全身の骨格 1脊柱				
	9	第10章 運動器系・Ⅱ全身の骨格 1脊柱				
	10	第10章 運動器系・Ⅱ全身の骨格 2胸郭 3上肢の骨格				
	11	第10章 運動器系・Ⅱ全身の骨格 2胸郭 3上肢の骨格				
	12	第10章 運動器系・Ⅱ全身の骨格 2胸郭 3上肢の骨格				
	13	第10章 運動器系・Ⅳ上肢 1 上肢の筋				
	14	第10章 運動器系・Ⅳ上肢 1 上肢の筋				
	15	第10章 運動器系・Ⅳ上肢 1 上肢の筋				
		終講時試験				
	16	第10章 運動器系・Ⅱ全身の骨格 4下肢の骨格				
	17	第10章 運動器系・Ⅱ全身の骨格 4下肢の骨格				
	18	第10章 運動器系・Ⅴ下肢 1下肢の筋				
	19	第10章 運動器系・Ⅴ下肢 1下肢の筋				
	20	第10章 運動器系・Ⅴ下肢 2下肢の運動				
	21	第10章 運動器系・Ⅴ下肢 2下肢の運動				
	22	第10章 運動器系・Ⅱ全身の骨格 5 頭蓋骨				
	23	第10章 運動器系・Ⅱ全身の骨格 5 頭蓋骨				
	24	第10章 運動器系・Ⅵ頭頸部 1頭頸部の筋				
	25	第10章 運動器系・Ⅵ頭頸部 1頭頸部の筋 2頭頸部の局所解剖				
	26	第10章 運動器系・Ⅲ体幹 1 体幹の筋				
	27	第10章 運動器系・Ⅲ体幹 1 体幹の筋 2体幹の運動				
	28	第10章 運動器系・Ⅲ体幹 2体幹の運動 3体幹の局所解剖				
	29	まとめ				
	30	まとめ				
		終講時試験				
講 義 内 容	31	第4章 消化器系				
	32	第4章 消化器系				
	33	第4章 消化器系				
	34	第3章 呼吸器系				
	35	第3章 呼吸器系				
	36	第5章 泌尿器系				
	37	第5章 泌尿器系				
	38	第6章 生殖器系				
	39	第6章 生殖器系				
	40	第6章 生殖器系				
	41	第7章 内分泌系				
	42	第7章 内分泌系				
	43	第9章 感覚器系				
	44	第9章 感覚器系				
	45	まとめ				
		終講時試験				
	46	第8章 神経系				
	47	第8章 神経系				
	48	第8章 神経系				
	49	第8章 神経系				
	50	第8章 神経系				
	51	第8章 神経系				
	52	第8章 神経系				
	53	第8章 神経系				
	54	第2章 循環器系				

55	第2章 循環器系
56	第2章 循環器系
57	第2章 循環器系
58	第2章 循環器系
59	第2章 循環器系
60	第2章 循環器系
	終講時試験

評価方法		筆記試験による評価	
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	単位不認定
使用教材		解剖学 第2版(東洋療法学校協会編)	
備考			

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名	解剖学Ⅱ					学年	2
講師名		時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
人体の構造と主たる機能について系統別（主に運動系・神経系）を学ぶ。							
講 義 内 容	1	第10章 運動器系					
	2	第10章 運動器系					
	3	第10章 運動器系					
	4	第10章 運動器系					
	5	第10章 運動器系					
	6	第10章 運動器系					
	7	第10章 運動器系					
	8	第8章 神経系					
	9	第8章 神経系					
	10	第8章 神経系					
	11	第8章 神経系					
	12	第8章 神経系					
	13	第8章 神経系					
	14	第8章 神経系					
	15	第8章 神経系					
	16	終講時試験					
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		筆記試験による評価					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材		解剖学 第2版(東洋療法学校協会編)					
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名	解剖学Ⅲ					学年	3
講師名		時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
人体の構造と主たる機能について総復習することにより知識を深める。							
講 義 内 容	1	第1章 人体の構成					
	2	第2章 循環器系					
	3	第3章 呼吸器系					
	4	第4章 消化器系					
	5	第5章 泌尿器系					
	6	第6章 生殖器系					
	7	第7章 内分泌系					
	8	第8章 神経系					
	9	第8章 神経系					
	10	第9章 感覚器系					
	11	第10章 運動器系					
	12	第10章 運動器系					
	13	まとめ					
	14	まとめ					
	15	まとめ					
	16	終講時試験					
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		筆記試験による評価					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材		解剖学 第2版(東洋療法学校協会編)					
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		生理学Ⅰ				学年	1
講師名		時間数	120	単位数	8	コマ数	60
授業概要、到達目標							
人体機能の物理的・化学的な仕組みを学習し、生体の全機性や生体保持について総論的に学習する。							
講 義 内 容	1	生理学の基礎Ⅰ-1.生理学の特徴（生命現象・生体の恒常性・個体の成り立ち）					
	2	生理学の基礎Ⅱ-2.細胞の構造と機能（細胞膜・細胞質・ゴルジ装置・ミトコンドリアなど）					
	3	生理学の基礎Ⅲ-3.物質代謝の仕組み、4.体液の組成と働き、5.物質の移動					
	4	血液Ⅰ-1.血液の組成と働き（赤血球・白血球・血小板・血漿）					
	5	血液Ⅱ-2.血液凝固の仕組み（血液凝固系・線維素溶解系）					
	6	血液Ⅲ-3.血液型（ABO式血液型・Rh式血液型・血液不適合輸血）					
	7	生理学の基礎及び血液のまとめと小テスト					
	8	神経Ⅰ-1.神経系のあらまし、2.ニューロンの構造と働き					
	9	神経Ⅱ-3.神経線維の興奮と伝導①（静止電位・活動電位）					
	10	神経Ⅲ-3.神経線維の興奮と伝導②（興奮の伝導）					
	11	神経Ⅳ-4.興奮の伝達（シナプス・神経伝達物質・受容体）					
	12	神経Ⅴ-5.末梢神経系（末梢神経系の分類と機能）					
	13	神経Ⅵ-6.中枢神経系①（分類と機能の概要・脊髄・脳幹・間脳）					
	14	神経Ⅶ-6.中枢神経系②（小脳・大脳基底核・大脳・脳波・脳脊髄液）					
	15	神経系のまとめと小テスト					
		中間試験 中間試験問題の解説					
	16	自律神経性調節Ⅰ-1.自律神経系の特徴（交感神経・副交感神経・内臓求心性神経など）					
	17	自律神経性調節Ⅱ-2.自律神経系の神経伝達物質と受容体					
	18	自律神経性調節Ⅲ-3.自律神経系の中核、4.自律神経反射					
	19	自律神経系のまとめと小テスト					
	20	筋Ⅰ-1.骨格筋の構造と働き（骨格筋の作用・筋線維と筋原線維・筋の微細構造）					
	21	筋Ⅱ-2.筋収縮の仕組み（興奮収縮連関・等張性及び等尺性収縮・単収縮と強縮）					
	22	筋Ⅲ-3.筋のエネルギー供給の仕組み（筋収縮のエネルギー代謝・筋の熱産生）					
	23	筋Ⅳ-4.心筋と平滑筋の構造と働き					
	24	筋のまとめと小テスト					
	25	運動Ⅰ-1.骨格筋の神経支配①（運動単位・ α 及び γ 運動ニューロン・筋紡錘・腱受容器）					
	26	運動Ⅱ-1.骨格筋の神経支配②（ α - γ 連関・神経筋接合部・筋トームス）					
	27	運動Ⅲ-2.運動の調節①（脊髄による調節・伸張反射・屈曲反射・長脊髓反射）					
	28	運動Ⅳ-2.運動の調節②（脳幹、小脳及び大脳基底核による調節）					
	29	運動Ⅴ-2.運動の調節③（大脳皮質による調節・発生と言語・歩行運動・呼吸運動）					
	30	運動のまとめと小テスト					
		終講時試験					
講 義 内 容	31	感覚Ⅰ-1.感覚の一般（感覚とその分類・感覚の一般的な性質・受容器と興奮伝達）					
	32	感覚Ⅱ-2.体性感覚（皮膚感覚・深部感覚）					
	33	感覚Ⅲ-3.内臓感覚、4.痛覚（痛みの分類・内因性発痛物質・痛みの抑制系など）					
	34	感覚Ⅳ-5.特殊感覚①（味覚・嗅覚・聴覚・平衡感覚）					
	35	感覚Ⅴ-5.特殊感覚②（視覚）					
	36	感覚のまとめと小テスト					
	37	循環Ⅰ-1.心臓血管系（体循環と肺循環・動脈と静脈）					
	38	循環Ⅱ-2.心臓（心臓の構造と機能・心筋の基本的性質・心機能の調節など）					
	39	循環Ⅲ-3.血管系の構造と機能（血管の構造・毛細血管の循環・血管の神経支配など）					
	40	循環Ⅳ-4.血圧、5.循環の調節					
	41	循環Ⅴ-6.特殊な部位の循環、7.リンパ系					
	42	循環のまとめと小テスト					
	43	呼吸Ⅰ-1.呼吸器系の構造と機能、2.呼吸運動、3.肺機能					
	44	呼吸Ⅱ-4.ガス交換とガスの運搬、5.呼吸運動の調節					
	45	呼吸のまとめと小テスト					
		中間試験 中間試験問題の解説					
	46	消化と吸収Ⅰ-1.消化管の構造と機能、2.口腔内の消化、3.胃内の消化					
	47	消化と吸収Ⅱ-4.小腸内の消化と吸収、5.大腸内の消化と吸収、6.直腸、肛門と排便					
	48	消化と吸収Ⅲ-7.消化管ホルモン、8.肝臓の働き					
	49	消化・吸収のまとめと小テスト					
	50	体温調節Ⅰ-1.体温の部位差と変動、2.体熱の産生と放散の仕組み					

51	体温調節Ⅱ-3.体温調節の仕組み（寒冷暴露、暑熱環境での体温調節・体温調節障害）
52	排泄Ⅰ-1.腎臓の構造と働き、2.尿の組成
53	排泄Ⅱ-3.腎臓における体液調節、4.蓄尿と排尿
54	体温調節及び排泄のまとめと小テスト
55	内分泌Ⅰ-1.ホルモンの一般的特徴
56	内分泌Ⅱ-2.各内分泌腺の働き①（視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺ホルモン）
57	内分泌Ⅲ-2.各内分泌腺の働き②（膵臓、副腎、性腺から分泌されるホルモン）
58	生殖・成長と老化Ⅰ-1.生殖（男性生殖器、女性生殖器、性周期、妊娠）
59	生殖・成長と老化Ⅱ-2.成長、3.老化
60	内分泌及び生殖のまとめと小テスト
	終講時試験

評価方法		筆記試験による評価	
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	単位不認定
使用教材		生理学 第3版(東洋療法学校協会編)	
備考			

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		生理学Ⅱ				学年	2
講師名		時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
人体を構成する9つのシステム(神経、感覚、運動、循環、呼吸、消化、排泄、生殖)の基本的な知識を再確認し、生命現象を深く理解する基盤を構築する。							
講 義 内 容	1	神経系総論①(ニューロンの構造と機能について学ぶ。)					
	2	神経系総論②(中枢神経系及び末梢神経系の成り立ちについて学ぶ。)					
	3	感覚神経①(体性感覚の一般的性質について学ぶ。)					
	4	感覚神経②(特殊感覚【5感】について学ぶ。)					
	5	運動神経①(骨格筋の構造と滑走説及び筋肉の収縮様式について学ぶ。)					
	6	運動神経②(下行伝導路及び伸張反射・防御反射について学ぶ。)					
	7	自律神経①(自律神経系の機能について学ぶ。)					
	8	自律神経②(自律神経反射及び睡眠について学ぶ。)					
	9	内分泌系①(全身の内分泌腺とホルモンの種類について学ぶ。)					
	10	内分泌系②(視床下部-下垂体系、甲状腺、膵臓、副腎及び性ホルモンについて学ぶ。)					
	11	循環(血液の組成と凝固、心臓機能及び循環の調節について学ぶ。)					
	12	呼吸(呼吸運動、ガス交換、呼吸調節及び酸塩基平衡について学ぶ。)					
	13	消化(消化系の構造と機能について学ぶ。)					
	14	排泄(腎臓の構造と機能、尿細管再吸収・分泌及びクリアランスについて学ぶ。)					
	15	試験問題の解答・解説					
	16	終講時試験					
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		筆記試験による評価					
評 価 基 準	G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材		生理学 第3版(東洋療法学校協会編)					
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		病理学概論					学年	2
講師名			時間数	45	単位数	3	コマ数	23
授業概要、到達目標								
疾病の原因や経過及び各種病変の特徴について総論的に学習する。								
講 義 内 容	1	病理学とは何か						
	2	病因(内因・外因)						
	3	病因(内因・外因)						
	4	病因(内因・外因)						
	5	循環障害						
	6	循環障害						
	7	循環障害						
	8	退行変性						
		終講時試験						
	9	退行変性						
	10	退行変性						
	11	退行変性						
	12	進行性病変						
	13	進行性病変						
	14	進行性病変						
	15	炎症						
	16	炎症						
	17	炎症						
	18	腫瘍						
	19	腫瘍						
	20	免疫異常・アレルギー						
	21	免疫異常・アレルギー						
	22	先天性異常						
	23	先天性異常						
	終講時試験							
25								
27								
28								
29								
30								
評価方法		筆記試験による評価						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						単位不認定
使用教材		病理学概論 第2版(東洋療法学校協会編)						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		リハビリテーション医学Ⅰ				学年	2	
講師名			時間数	15	単位数	1	コマ数	8
授業概要、到達目標								
リハビリテーションの理念を理解し、リハビリテーション医学の役割を学び、適応疾患の機能回復訓練の施術を習得する。								
講 義 内 容	1	リハビリテーション総論						
	2	医学的リハビリテーションの概要						
	3	運動器の理解と整形外科疾患 ～腰痛、膝痛、扁平足から学ぶ～						
	4	脳・中枢神経の理解と脳血管障害、脊髄損傷 ～認知症から学ぶ～						
	5	呼吸器・心大血管の理解						
	6	障害の評価(症状、機能の評価)						
	7	障害の評価(ADL、IADL、生活のしづらさ)						
	8	医療・保健・福祉とリハビリテーション						
	9	終講時試験						
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
	16							
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30							
評価方法		筆記試験による評価						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定	
使用教材		新版リハビリテーション医学						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		リハビリテーション医学Ⅱ				学年	3
講師名		時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
リハビリテーションの理念を理解し、リハビリテーション医学の役割を学び、適応疾患の機能回復訓練の施術を習得する。							
講 義 内 容	1	リハビリテーションの実際1(過去～現在)					
	2	リハビリテーションの実際2(現在～未来)					
	3	歩行・異常歩行					
	4	代償という技法;義肢、装具、車椅子、杖					
	5	脳卒中のリハビリテーション					
	6	脊髄損傷のリハビリテーション					
	7	高齢者のリハビリテーション					
	8	地域リハビリテーションの発展					
	9	ノーマライゼーションからインクルージョン 就労・社会参加					
	10	運動器疾患のリハビリテーション(骨折・関節疾患・リウマチ、等)					
	11	内部障害のリハビリテーション					
	12	小児の障害とハビリテーション					
	13	精神障害に対するリハビリテーション(統合失調症)					
	14	精神障害に対するリハビリテーション(気分障害、依存症)					
	15	認知症に対するリハビリテーション リハビリテーションと予防医学					
	16	終講時試験					
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		筆記試験					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材		新版リハビリテーション医学					
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		臨床医学総論Ⅰ					学年	1
講師名			時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標								
疾病の診断方法及び観察検査の一般について学習し、実際の臨床応用に適応する知識と技能を習得する。西洋医学的診断術の基礎を学ぶ。								
講 義 内 容	1	オリエンテーション・第1章 診察の概要						
	2	第1章 診察の概要・第2章 診察の方法						
	3	第2章 診察の方法						
	4	第2章 診察の方法						
	5	第3章 生命徴候(バイタルサイン)の診察						
	6	第3章 生命徴候(バイタルサイン)の診察						
	7	第3章 生命徴候(バイタルサイン)の診察						
	8	第3章 生命徴候(バイタルサイン)の診察						
	9	第4章 全身の診察						
	10	第4章 全身の診察						
	11	第4章 全身の診察						
	12	第4章 全身の診察						
	13	第4章 全身の診察・第5章 局所の診察						
	14	第5章 局所の診察						
	15	第5章 局所の診察						
	16	終講時試験						
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30							
評価方法		小テスト・筆記試験						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						単位不認定
使用教材		臨床医学総論 第2版(東洋療法学校協会編)						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名	臨床医学総論Ⅱ					学年	2
講師名		時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
疾病の診断方法及び観察検査の一般について学習し、実際の臨床応用に適応する知識と技能を習得する。 1年次の知識を応用し、国家試験へ向けての学習をする。							
講 義 内 容	1	第5章 局所の診察					
	2	第5章 局所の診察					
	3	第5章 局所の診察					
	4	第5章 局所の診察					
	5	第6章 神経系の診察					
	6	第6章 神経系の診察					
	7	第6章 神経系の診察					
	8	第6章 神経系の診察					
	9	第7章 運動機能検査					
	10	第7章 運動機能検査					
	11	第7章 運動機能検査					
	12	第7章 運動機能検査					
	13	第8章 その他の診察・第9章 臨床検査法					
	14	第9章 臨床検査法					
	15	第9章 臨床検査法					
	16	終講時試験					
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		筆記試験による評価					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材		臨床医学総論 第2版(東洋療法学校協会編)					
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名						学年	2
講師名		時間数	60	単位数	4	コマ数	30
授業概要、到達目標 各疾患について系統立てた分類に基づき、概要、特徴を理解し、鑑別診断等の知識を習得することで鍼灸施術に必要な応用知識を習得する。							
講 義 内 容	1	第8章 整形外科疾患					
	2	第8章 整形外科疾患					
	3	第8章 整形外科疾患					
	4	第8章 整形外科疾患					
	5	第8章 整形外科疾患					
	6	第2章 消化器疾患					
	7	第2章 消化器疾患					
	8	第2章 消化器疾患					
	9	第3章 肝・胆・膵臓疾患					
	10	第3章 肝・胆・膵臓疾患					
	11	第4章 呼吸器疾患					
	12	第4章 呼吸器疾患					
	13	第6章 内分泌疾患					
	14	第7章 代謝・栄養疾患					
	15	まとめ					
		終講時試験					
	16	第11章 神経疾患					
	17	第11章 神経疾患					
	18	第11章 神経疾患					
	19	第11章 神経疾患					
	20	第11章 神経疾患					
	21	第5章 腎・尿器疾患					
	22	第5章 腎・尿器疾患					
	23	第9章 循環器疾患					
	24	第9章 循環器疾患					
	25	第9章 循環器疾患					
	26	第10章 血液・造血疾患					
	27	第1章 感染症					
	28	第12章 リウマチ性疾患・膠原病					
	29	第13章 その他の領域					
	30	まとめ					
		終講時試験					

評価方法		筆記試験による評価	
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	単位不認定
使用教材		臨床医学各論 第2版(東洋療法学校協会編)	
備考			

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名	臨床医学各論Ⅱ					学年	3
講師名		時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
2年次に学習した各疾患について理解を深め、鑑別診断等の知識を習得する。							
講 義 内 容	1	第1章 感染症					
	2	第2章 消化器疾患					
	3	第3章 肝・胆・膵臓疾患					
	4	第4章 呼吸器疾患					
	5	第5章 腎・尿器疾患					
	6	第6章 内分泌疾患					
	7	第7章 代謝・栄養疾患					
	8	第8章 整形外科疾患					
	9	第9章 循環器疾患					
	10	第10章 血液・造血疾患					
	11	第11章 神経疾患					
	12	第12章 リウマチ性疾患・膠原病					
	13	第13章 その他の領域					
	14	まとめ					
	15	まとめ					
	16	終講時試験					
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		筆記試験による評価					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材		臨床医学各論 第2版(東洋療法学校協会編)					
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		医療概論				学年	1	
講師名		時間数		15	単位数	1	コマ数	8
授業概要、到達目標								
医史により先人の偉業を学び、医の倫理を中心に学習を進め、医療を担う人間の多様な価値観や寛容の精神を養う。								
講 義 内 容	1	医療とは何か/職業倫理について						
	2	医療とは何か/東洋医学について						
	3	社会的義務・社会保障制度について						
	4	中世の医学						
	5	中国医療について						
	6	日本の医学と医療の歴史について						
	7	近代の医学						
	8	現代の医学と医療/医療従事者の倫理						
	9	終講時試験						
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
	16							
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30							
評価方法		筆記試験による評価						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定	
使用教材		医療概論(東洋療法学校協会編)						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		衛生学・公衆衛生学				学年	2	
講師名		時間数		45	単位数	3	コマ数	23
授業概要、到達目標								
環境が健康に与える影響や行政の役割などを理解し、衛生・公衆衛生学の基礎を習得する。								
講 義 内 容	1	第1章 衛生学・公衆衛生学の意義 ①						
	2	第2章 健康 ①						
	3	第2章 健康 ②						
	4	第2章 健康 ③						
	5	第3章 ライフスタイルと健康 ①						
	6	第3章 ライフスタイルと健康 ②						
	7	第4章 環境と健康 ①						
	8	第4章 環境と健康 ②						
	9	第4章 環境と健康 ③						
	10	第4章 環境と健康 ④						
	11	第5章 産業保健 ①						
	12	第5章 産業保健 ②						
	13	第6章 精神保健						
	14	第7章 母子保健						
	15	第8章 成人・高齢者保健 ①						
	16	終講時試験						
	17	第8章 成人・高齢者保健 ②						
	18	第9章 感染症とその対策 ①						
	19	第9章 感染症とその対策 ②						
	20	第9章 感染症とその対策 ③						
	21	第10章 消毒 ①						
	22	第10章 消毒 ②						
	23	第11章 疫学						
	24	第12章 保健統計						
	25	終講時試験						
	26							
	27							
	28							
	29							
	30							
評価方法		筆記試験による評価						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						単位不認定
使用教材		衛生学・公衆衛生学 第2版(東洋療法学校協会編)						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		東洋医学概論					学年	1
講師名			時間数	60	単位数	4	コマ数	30
授業概要、到達目標								
鍼灸治療を行うにあたり必要な基本的思想・哲学・診断法などの知識を学ぶ。								
講 義 内 容	1	第1章 第1節 東洋医学の起源・第2節 人体の見方（天人合一思想）						
	2	第1章 第3節 東洋医学関治療・第3章 陰陽論						
	3	第3章 五行学説（相生・相克・相乗・相侮）						
	4	第3章 五行色体表（自然界の五行）						
	5	第3章 五行色体表（人体の五行）						
	6	第2章 生理と病理（精について）						
	7	第2章 気・血の生理						
	8	第2章 生理物質における相互作用						
	9	第2章 神の概念と病理						
	10	第2章 人体における陰陽						
	11	第2章 蔵象学説						
	12	第2章 肝系統						
	13	第2章 心系統						
	14	第2章 脾系統						
	15	第2章 肺系統						
		終講時試験						
	16	第2章 腎系統・三焦						
	17	第2章 五臓の相互作用（心脾肝の関係）						
	18	第2章 心肺腎の関係						
	19	第2章 脾肝腎の関係						
	20	第2章 脾肝腎の関係						
	21	第2章 六腑の協調関係						
	22	第2章 全身の気機						
	23	第2章 気機の相互作用						
	24	第2章 経絡						
	25	第2章 病因						
	26	第2章 内傷病因						
	27	第2章 病機						
	28	第3章 内生五邪						
	29	第4章 四診 第1節望診						
30	舌診							
	終講時試験							
評価方法		小テスト・筆記試験						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						単位不認定
使用教材		新版 東洋医学概論						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		経絡経穴概論				学年	1	
講師名			時間数	60	単位数	4	コマ数	30
授業概要、到達目標								
東洋医学の基本となる気の流れを知り、施術に用いる経穴の名前、場所、主治を理解し身体の解剖学的な位置との関わりを理解する。								
講 義 内 容	1	東洋医学の身体観の把握、オリエンテーション						
	2	経絡経穴について正経十二経、骨度法について						
	3	骨度法について						
	4	経穴の取り方に必要な用語						
	5	経穴の取り方に必要な用語						
	6	督脈						
	7	督脈						
	8	任脈						
	9	手の太陰肺経						
	10	手の陽明大腸経						
	11	足の陽明胃経（前半）						
	12	足の陽明胃経（後半）						
	13	足の太陰脾経（前半）						
	14	足の太陰脾経（後半）						
	15	まとめ						
		終講時試験						
	16	手の少陰心経						
	17	手の太陽小腸経						
	18	手の太陽小腸経						
	19	足の太陽膀胱経（前半）						
	20	足の太陽膀胱経（中半）						
	21	足の太陽膀胱経（後半）						
	22	足の少陰腎経						
	23	足の少陰腎経						
	24	手の厥陰心包経						
	25	手の少陽三焦経						
	26	手の少陽三焦経（後半）						
	27	足の少陽胆経						
	28	足の少陽胆経						
	29	足の厥陰肝経						
	30	まとめ						
		終講時試験						
評価方法		小テスト・筆記試験						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定	
使用教材		新版 経絡経穴概論 第2版						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		はりきゅう理論Ⅰ				学年	1	
講師名			時間数	15	単位数	1	コマ数	8
授業概要、到達目標								
鍼灸師にとって必要な基礎知識を学び鍼灸治療に対して理解を深める								
講 義 内 容	1	イントロダクション・概論について						
	2	鍼の基礎知識について・刺鍼の方式と術式について						
	3	刺鍼の方式と術式について・特殊鍼法について						
	4	特殊鍼法について						
	5	灸の基礎知識について						
	6	灸術の種類について						
	7	灸術の種類について						
	8	鍼灸の臨床応用について						
	9	終講時試験						
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
	16							
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30							
評価方法		小テスト・筆記試験						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定	
使用教材		はりきゅう理論(東洋療法学校協会編)						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		はりきゅう理論Ⅱ				学年	2	
講師名		時間数		30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標								
鍼灸師にとって必要な基礎知識を学び鍼灸治療に対して理解を深める								
講 義 内 容	1	リスク管理について						
	2	リスク管理について						
	3	リスク管理について						
	4	リスク管理について						
	5	鍼灸治効の基礎について						
	6	鍼灸治効の基礎について						
	7	鍼灸治効の基礎について						
	8	鍼灸治効の基礎について						
	9	鍼灸治効の基礎について						
	10	鍼灸治効の基礎について						
	11	鍼灸治効の基礎について						
	12	鍼灸療法の一般治効理論について						
	13	鍼灸療法の一般治効理論について						
	14	鍼灸療法の一般治効理論について						
	15	関連学説						
	16	終講時試験						
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30							
評価方法		小テスト・筆記試験による評価						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						単位不認定
使用教材		はりきゅう理論(東洋療法学校協会編)						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		体表解剖				学年	1	
講師名			時間数	15	単位数	2	コマ数	30
授業概要、到達目標								
生態観察の視点から施術における体表観察技術を習得し、身体の異常を把握し、筋・骨に対する理解を深める。また、経絡経穴概論で学ぶ要穴の取穴に関して習得する。								
講 義 内 容	1	オリエンテーション、生態観察、体表解剖に必要な知識 手足の計測						
	2	骨度法						
	3	骨度法						
	4	体幹の動きについて(督脈)						
	5	体幹(督脈)						
	6	手指・手関節・肘関節の動き・構成について						
	7	前腕部(手の太陰肺経)						
	8	前腕部(手の陽明大腸経)						
	9	足趾・足関節・膝関節の動き・構成について						
	10	下腿部(足の陽明胃経)						
	11	下腿部(足の太陰脾経)						
	12	手指・手関節・肘関節の動き・構成について						
	13	前腕部(手の少陰心経)						
	14	前腕部(手の太陽小腸経)						
	15	まとめ						
		終講時試験						
	16	足趾・足関節・膝関節の動き・構成について						
	17	下腿部(足の太陽膀胱経)						
	18	下腿部(足の少陰腎経)						
	19	手指・手関節・肘関節の動き・構成について						
	20	前腕部(手の厥陰心包経)						
	21	前腕部(手の少陽三焦経)						
	22	足趾・足関節・膝関節の動き・構成について						
	23	下腿部(足の少陽胆経)						
	24	下腿部(足の厥陰肝経)						
	25	体幹の動きについて						
	26	背部(督脈・足の太陽膀胱経)						
	27	腹部(任脈)						
	28	肩の動き・構成について						
	29	頸部の動き・構成について						
	30	まとめ						
	終講時試験							
評価方法		小テスト・口頭試験・実技試験による評価						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定	
使用教材		新版 経絡経穴概論 第2版 解剖学 第2版(東洋療法学校協会編)						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		鍼灸臨床学				学年	2		
講師名				時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標									
東洋医学的な診断と治療法について学ぶ									
講 義 内 容	1	第2節 問診							
	2	第2節 異常音							
	3	第3節 問診 寒熱・飲食							
	4	衰陰・二便							
	5	第4節 切診							
	6	切経							
	7	弁証論治							
	8	気血津液弁証							
	9	気血津液弁証							
	10	論治と治則							
	11	治法							
	12	鍼灸治療の概要							
	13	弁証論治の進め方							
	14	十七手技と撮診							
	15	九刺（巨刺と遠道刺の応用）							
	16	終講時試験							
	17								
	18								
	19								
	20								
	21								
	22								
	23								
	24								
	25								
	26								
	27								
	28								
	29								
	30								
評価方法		筆記試験による評価							
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						単位認定	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						単位認定	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						単位不認定	
使用教材		新版 東洋医学概論							
備考									

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		臨床経絡経穴学				学年	2
講師名		時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
経絡経穴概論を踏まえ、解剖学的な知識と結びつけ、臨床に必要な選穴を習得する。また、奇経八脈や奇穴、現代的研究についても理解する。							
講 義 内 容	1	奇経八脈					
	2	奇経八脈					
	3	奇穴(頭頸部穴・胸腹部穴・背部穴)					
	4	奇穴(上肢部穴・下肢部穴)					
	5	奇穴(よく知られている経穴の組み合わせ)					
	6	経絡・経穴の現代的研究					
	7	十四経脈					
	8	十四経脈					
	9	筋・腱・靱帯・神経・動脈に関する経穴					
	10	筋・腱・靱帯・神経・動脈に関する経穴					
	11	筋・腱・靱帯・神経・動脈に関する経穴					
	12	筋・腱・靱帯・神経・動脈に関する経穴					
	13	筋・腱・靱帯・神経・動脈に関する経穴					
	14	筋・腱・靱帯・神経・動脈に関する経穴					
	15	まとめ					
	16	終講時試験					
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
	評価方法		筆記試験による評価				
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材		新版 経絡経穴概論 第2版					
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		東洋医学臨床論Ⅰ				学年	2	
講師名			時間数	60	単位数	4	コマ数	30
授業概要、到達目標								
鍼灸治療の基本的考え方、治療計画の立て方、治療の進め方と治療効果の評価について西洋医学的な考え方と東洋医学的な考え方について学ぶ。さらに具体的な症例トレーニングを行い、弁証・処方・配穴といった治療概念を理解する。								
講 義 内 容	1	東洋医学臨床論とは、治療原則と治療概念						
	2	治療原則と治療概念						
	3	頭痛						
	4	頭痛						
	5	顔面痛						
	6	顔面痛						
	7	顔面麻痺						
	8	顔面麻痺						
	9	歯痛						
	10	肩こり・頸肩腕痛・上肢痛について						
	11	肩こり・頸肩腕痛・上肢痛について						
	12	肩こり・頸肩腕痛・上肢痛について						
	13	腰下肢痛・膝痛・運動麻痺について						
	14	腰下肢痛・膝痛・運動麻痺について						
	15	腰下肢痛・膝痛・運動麻痺について						
		終講時試験						
	16	眼精疲労						
	17	鼻閉と鼻汁						
	18	脱毛症						
	19	めまい						
	20	耳鳴りと難聴						
	21	咳嗽と喘息						
	22	悪心と嘔吐						
	23	便秘と下痢						
	24	月経異常						
	25	排尿障害・ED（勃起不全）						
	26	高血圧症・低血圧症						
	27	食欲不振・肥満						
	28	発熱						
	29	のぼせと冷え						
	30	まとめ						
		終講時試験						
評価方法		筆記試験による評価						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定	
使用教材		新版 経絡経穴概論 第2版 新版 東洋医学概論 臨床医学各論 第2版 解剖学 第2版(東洋療法学校協会編)他						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		東洋医学臨床論Ⅲ					学年	3
講師名			時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標								
鍼灸治療の基本的考え方，治療計画の立て方，治療の進め方と治療効果の評価について西洋医学的な考え方と東洋医学的な考え方について学ぶ。さらに具体的な症例トレーニングを行い，弁証・処方・配穴といった治療概念を理解する。								
講 義 内 容	1	①気のまとめ②陰陽五行③五臓六腑④五行図						
	2	①気のまとめ②陰陽五行③五臓六腑④五行図						
	3	⑤十二経脈⑥奇経八脈⑦六経病証						
	4	⑤十二経脈⑥奇経八脈⑦六経病証						
	5	⑧古代刺法・鍼灸補瀉法について						
	6	⑧古代刺法・鍼灸補瀉法について						
	7	⑨「病因説」⑩四診（腹診・舌診・脈診・指紋）						
	8	⑨「病因説」⑩四診（腹診・舌診・脈診・指紋）						
	9	⑪「難経六十九難」について						
	10	⑫五臓の「証」について						
	11	⑬「八綱辨証」について						
	12	⑬「八綱辨証」について						
	13	⑭「辨証論治」で症例の分析～						
	14	⑭「辨証論治」で症例の分析～						
	15	まとめ						
	16	終講時試験						
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30							
評価方法		筆記試験による評価						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						単位不認定
使用教材		新版 経絡経穴概論 第2版 新版 東洋医学概論 臨床医学各論 第2版 解剖学 第2版(東洋療法学校協会編)他						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		病態生理学					学年	3
講師名		時間数		30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標								
今まで学習した解剖・生理・病理の知識を活用して、病気の症状が起こる理由を学習する								
講 義 内 容	1	消化器						
	2	消化器						
	3	消化器						
	4	消化器						
	5	呼吸器						
	6	呼吸器						
	7	呼吸器						
	8	呼吸器						
	9	循環器						
	10	循環器						
	11	循環器						
	12	循環器						
	13	泌尿器						
	14	泌尿器						
	15	泌尿器						
	16	終講時試験						
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30							
評価方法		筆記試験による評価						
評 価 基 準	G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						単位不認定
使用教材								
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		関係法規				学年	3	
講師名			時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標								
社会における人の権利、人権を守ることを前提に医療従事者として必要な医事福祉法規を中心に学ぶ。また変りゆく医療に対応するために高齢者の医療の確保に関する法律、障がい者自立支援法、医療保険・社会保障制度についても学ぶ。								
講 義 内 容	1	序論 法の概要、国家試験の関係法規の傾向						
	2	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律①						
	3	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律②						
	4	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律②						
	5	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律②						
	6	第2章 関係法規						
	7	第2章 関係法規						
	8	第2章 関係法規						
	9	第2章 関係法規						
	10	第2章 関係法規						
	11	法制度の沿革						
	12	法令等						
	13	開業シミュレーション						
	14	開業シミュレーション						
	15	まとめ						
	16	終講時試験						
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30							
評価方法		筆記試験による評価						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定	
使用教材		関係法規 第7版(東洋療法学校協会編)						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		基礎はり実技				学年	2	
講師名		水森貴子	時間数	90	単位数	2	コマ数	45
授業概要、到達目標								
鍼灸師になるために必要な基礎知識を学び、刺鍼の基礎技術を習得する。また、鍼用具、手指等の清潔保持、施術者としての身だしなみやマナーを身につける。 <u>※実務経験のある教員等による授業科目となる</u>								
講 義 内 容	1	実習室のルール・鍼術とは・鍼具の名称・鍼体長・鍼体径・手指洗浄・消毒法						
	2	前回の復習・鍼の基本実技 管鍼法、押手とは・刺鍼練習用枕での片手・両手挿管操作の基本練習						
	3	前回の復習・鍼の基本実技 刺鍼練習用枕での片手挿管操作の基本練習・鍼枕への刺鍼(旋擦刺法について)						
	4	前回の復習・鍼の基本実技 刺鍼練習用枕での片手挿管操作の基本練習・鍼枕への刺鍼(前揉法・後揉法について)						
	5	前回の復習・鍼の基本実技 刺鍼練習用枕での片手挿管操作の基本練習・鍼枕への刺鍼(人体への刺鍼の流れ)						
	6	前回の復習・鍼の基本実技 刺鍼練習用枕での片手挿管操作の基本練習・鍼枕への刺鍼(刺入寸度)						
	7	前回の復習・鍼の基本実技 刺鍼練習用枕での片手挿管操作の基本練習・鍼枕への刺鍼(まとめ)						
	8	鍼の基本実技 小テスト(片手挿管法・旋擦刺法)						
	9	鍼の基本実技 消毒法について、施術における体位、安全・過誤について						
	10	鍼の基本実技 消毒法について、各自の大腿前面における切皮・刺鍼						
	11	各自の下腿前面(胃経)における切皮と旋擦刺入の練習、下腿前面への刺鍼練習						
	12	消毒法・ワゴンの使い方、タオルのかけ方について、下腿前面(胃経;足三里)の取穴・刺鍼練習						
	13	消毒法・ワゴンの使い方、タオルのかけ方について、下腿後面(膀胱経;承山)の取穴・刺鍼練習						
	14	下腿後面(膀胱経;承山・承筋)の取穴・刺鍼練習						
	15	まとめ						
		終講時試験						
	16	消毒法・ワゴンの使い方、タオルのかけ方について、下腿外側・下腿前面(胃経;足三里、胆経;陽陵泉)の取穴・刺鍼練習						
	17	前腕・肘関節部(肺経;孔最・尺沢)の取穴・刺鍼練習						
	18	手関節部・肘関節部(大腸経;合谷・陽溪・手三里・曲池)の取穴・刺鍼練習						
	19	膝・下腿部(胃経;梁丘・豊隆)の取穴・刺鍼練習						
	20	下腿内側(脾経;陰陵泉、三陰交)の取穴・刺鍼練習						
	21	前腕外側・手部(心経;少府・陰郛)の取穴・刺鍼練習(斜刺)						
	22	前腕外側(小腸経;養老・支正)の取穴・刺鍼練習(斜刺)						
	23	足関節部(膀胱経;崑崙・中封)、膝関節部(膀胱経;委中)の取穴・刺鍼練習						
	24	足関節部(腎経;太溪)下腿内側(腎経;復溜)、膝関節部(腎経;陰谷)の取穴・刺鍼練習						
	25	手関節部(心包経;大陵)前腕部(心包経;内関、郛門)の取穴・刺鍼練習						
	26	前腕後面(三焦経;外関・会宗)、肘関節(三焦経;天井)の取穴・刺鍼練習(斜刺)						
	27	足部(胆経;足臨泣)、下腿外側(胆経;光明・懸鐘)の取穴・刺鍼練習(斜刺)						
	28	下腿内側(肝経;蠡溝・中都)の取穴・刺鍼練習(横刺)						
	29	下腿内側(肝経;蠡溝・中都)の取穴・刺鍼練習(横刺)						
	30	腰部(大腸俞・腎俞)の取穴・刺鍼練習(斜刺)						
	31	腰部(命門・腎俞)の取穴・刺鍼練習(直刺・斜刺)						
	32	腹部(中脘、天枢)の取穴・刺鍼練習(直刺・斜刺)						
	33	頭部(百会・頭維)の取穴・刺鍼練習						
	34	顔面部(攢竹・陽白)の取穴・刺鍼練習						
	35	背部(膈俞・肝俞・脾俞)の取穴・刺鍼練習						
	36	背部(膈俞・肝俞・脾俞)の取穴・刺鍼練習						
	37	肩部(肩井)の取穴・刺鍼練習						
	38	頸部(天柱・風池)の取穴・刺鍼練習						
	39	テーピング実技1						
	40	テーピング実技2						
	41	テーピング実技3						
	42	テーピング実技4						
	43	テーピング実技5						
	44	テーピング実技6						
45	まとめ							
	終講時試験							
評価方法		小テスト・口頭試験・実技試験による評価						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						単位不認定
使用教材		滋慶認定実技審査対応 ずっと使える！鍼灸臨床BOOK						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		基礎きゅう実技				学年	2	
講師名		時間数		90	単位数	2	コマ数	45
授業概要、到達目標								
鍼灸師になるために必要な基礎知識を学び、刺鍼の基礎技術を習得する。また、鍼用具、手指等の清潔保持、施術者としての身だしなみやマナーを身につける。								
講 義 内 容	1	実習室の使い方、衛生的な手洗い						
	2	灸術の定義(復習)、艾の捻り方(米粒大)、点火の方法						
	3	前回までの復習、艾の捻り方(米粒大)、線香による点火						
	4	米粒大の練習、点火						
	5	灸施術の過誤について、米粒大の捻り、点火						
	6	半米粒大、線香での点火、1分間スピード灸						
	7	半米粒大、線香での点火、1分間スピード灸						
	8	スピード灸(1分、5分)、ワゴンの使い方						
	9	スピード灸(1分、5分)、失眠の灸						
	10	スピード灸(1分、5分)、失眠の灸						
	11	スピード灸(1分、5分)、八分灸(米粒大)の練習、下腿の穴(陰経)						
	12	スピード灸(1分、5分)、八分灸(米粒大)の練習、下腿の穴(陽経)						
	13	スピード灸(1分、5分)、八分灸(米粒大)の練習、前腕の穴(陰経)						
	14	スピード灸(1分、5分)、八分灸(米粒大)の練習、前腕の穴(陽経)						
	15	まとめ						
		終講時試験						
	16	スピード灸(1分、5分)、八分灸(米粒大)の練習、腰部の穴						
	17	スピード灸(1分、5分)、八分灸(米粒大)の練習、腰部の穴						
	18	手の経穴(井穴)						
	19	手の経穴(井穴)						
	20	手の経穴(榮穴)						
	21	手の経穴(榮穴)						
	22	手の経穴(俞穴、原穴)						
	23	手の経穴(俞穴、原穴)						
	24	前腕の経穴(肺経、心包経、心経)						
	25	前腕の経穴(肺経、心包経、心経)						
	26	前腕の経穴(大腸経、三焦経、小腸経)						
	27	前腕の経穴(大腸経、三焦経、小腸経)						
	28	足の経穴(井穴)						
	29	足の経穴(井穴)						
	30	足の経穴(榮穴)						
	31	足の経穴(榮穴)						
	32	足の経穴(俞穴、原穴)						
	33	足の経穴(俞穴、原穴)						
	34	下腿の経穴(脾経、肝経、腎経)						
	35	下腿の経穴(脾経、肝経、腎経)						
	36	下腿の経穴(胃経、膀胱経、胆経)						
	37	下腿の経穴(胃経、膀胱経、胆経)						
	38	胃の六つ灸						
	39	胃の六つ灸						
	40	隔物灸						
	41	隔物灸						
	42	塩灸						
	43	塩灸						
	44	まとめ1						
	45	まとめ2						
		終講時試験						

評価方法		小テスト・口頭試験・実技試験による評価	
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	単位不認定
使用教材		滋慶認定実技審査対応　ずっと使える！鍼灸臨床BOOK	
備考			

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		鍼灸実技				学年	2	
講師名			時間数	180	単位数	4	コマ数	90
授業概要、到達目標								
基礎実技から臨床実技基礎を結びつける知識と技術を学習する。要穴の取穴・刺鍼・施灸ができ、様々な治療方法を学ぶ。								
講 義 内 容	1	M-test						
	2	M-test						
	3	M-test						
	4	M-test						
	5	M-test						
	6	M-test						
	7	M-test						
	8	M-test						
	9	M-test						
	10	M-test						
	11	赤羽刺法						
	12	赤羽刺法						
	13	赤羽刺法						
	14	赤羽刺法						
	15	良導絡						
	16	良導絡						
	17	良導絡						
	18	良導絡						
	19	基本刺鍼・基本施灸(十二経脈)						
	20	基本刺鍼・基本施灸(十二経脈)						
	21	基本刺鍼・基本施灸(十二経脈)						
	22	基本刺鍼・基本施灸(十二経脈)						
	23	基本刺鍼・基本施灸(十二経脈)						
	24	基本刺鍼・基本施灸(十二経脈)						
	25	基本刺鍼・基本施灸(十二経脈)						
	26	基本刺鍼・基本施灸(十二経脈)						
	27	基本刺鍼・基本施灸(十二経脈)						
	28	基本刺鍼・基本施灸(十二経脈)						
	29	基本刺鍼・基本施灸(十二経脈)						
	30	基本刺鍼・基本施灸(十二経脈)						
	31	基本刺鍼・基本施灸(十二経脈)						
	32	基本刺鍼・基本施灸(十二経脈)						
	33	基本刺鍼・基本施灸(十二経脈)						
	34～90	様々な症例に対する刺鍼・施灸						
	終講時試験							
評価方法		実技試験・口頭試問による評価						
評 価 基 準	G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				単位認定		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				単位認定		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定		
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				単位認定		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				単位不認定		
使用教材		滋慶認定実技審査対応　ずっと使える！鍼灸臨床BOOK						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		スポーツ鍼灸実技				学年	2	
講師名		水森貴子	時間数	45	単位数	1	コマ数	23
授業概要、到達目標								
スポーツを行うことで発生する障害や外傷を学びそれらに対応した検査法や治療法，評価を身につける。 ※実務経験のある教員等による授業科目となる								
講 義 内 容	1	オリエンテーション・筋疲労に対する鍼灸治療						
	2	筋疲労に対する鍼灸治療						
	3	頸部に関わるスポーツ障害の鑑別と治療法						
	4	頸部に関わるスポーツ障害の鑑別と治療法						
	5	肩関節に関わるスポーツ障害の鑑別と治療法						
	6	肩関節に関わるスポーツ障害の鑑別と治療法						
	7	肘関節に関わるスポーツ障害の鑑別と治療法						
	8	腰部に関わるスポーツ障害の鑑別と治療法						
	9	腰部に関わるスポーツ障害の鑑別と治療法						
	10	股関節に関わるスポーツ障害の鑑別と治療法						
	11	股関節に関わるスポーツ障害の鑑別と治療法						
	12	膝関節に関わるスポーツ障害の鑑別と治療法						
	13	膝関節に関わるスポーツ障害の鑑別と治療法						
	14	足関節に関わるスポーツ障害の鑑別と治療法						
	15	足関節に関わるスポーツ障害の鑑別と治療法						
	16	スポーツ選手に対する手技療法：筋疲労に対するアプローチ						
	17	スポーツ選手に対する手技療法：腰部						
	18	スポーツ選手に対する手技療法：背部および肩甲骨まわり						
	19	スポーツ選手に対する手技療法：上肢						
	20	スポーツ選手に対する手技療法：下肢						
	21	スポーツ選手に対する手技療法：頸部						
	22	スポーツ選手に対する手技療法：オイルを用いたアプローチ						
	23	スポーツ選手に対する手技療法：全身応用						
	24	終講時試験						
25								
26								
27								
28								
29								
30								
評価方法		実技試験による評価						
評 価 基 準	G P A 評 価	A(90点以上)：教科目標を高い水準で達成している。					単位認定	
		B(80～89点)：教科目標達成において優れている。					単位認定	
		C(70～79点)：教科目標において一定の水準に達している。					単位認定	
		D(60～69点)：教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定	
		F(59点以下または不合格)：教科目標を達成することができなかった。					単位不認定	
使用教材		滋慶認定実技審査対応　ずっと使える！鍼灸臨床BOOK						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		美容・健康実技				学年	2	
講師名			時間数	45	単位数	1	コマ数	23
授業概要、到達目標								
女性疾患・美容鍼灸・皮膚科学の基礎を習得し、美容鍼灸の意義、必要性を考え、少ない鍼の数で安全に全身治療に基づく鍼灸治療を経験することを目標とする。								
講 義 内 容	1	美容鍼灸基礎医学・皮膚科学基礎（座学）						
	2	概要、デモンストレーション（実技）						
	3	美容鍼灸各論・皮膚科学各論（座学）						
	4	顔面部基本取穴（実技）						
	5	経絡治療（座学）						
	6	経絡治療（実技）						
	7	奇形八脈、イオン球：十一円療法（座学）						
	8	奇形八脈、イオン球：十一円療法（実技）						
	9	アキュレッチ（オイルトリートメント）の目的（座学）						
	10	アキュレッチ（実技）						
	11	リスク管理とまとめ（座学）						
	12	全体練習（実技）						
	13	全体練習（実技）						
	14	全体練習（実技） 修了証授与						
	15	皮膚疾患①（座学）						
	16	皮膚疾患①（実技）						
	17	皮膚疾患②（座学）						
	18	皮膚疾患②（実技）						
	19	女性疾患①（座学）						
	20	女性疾患①（実技）						
	21	女性疾患②（座学）						
	22	女性疾患②（実技）						
	23	まとめ						
	24	終講時試験						
25								
26								
27								
28								
29								
30								

評価方法		実技試験による評価	
評価基準	G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	単位不認定
使用教材			
備考			

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名	応用鍼灸実技Ⅰ					学年	3
講師名	水森貴子	時間数	135	単位数	3	コマ数	68

教科目標

基礎から応用までの理論と実際を鍼灸を含め、総合的な手技療法を学ぶ。
※実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	手技療法1
	2	手技療法2
	3	手技療法3
	4	手技療法4
	5	手技療法5
	6	手技療法6
	7	手技療法7
	8	手技療法8
	9	西洋医学的な診断術・施術練習
	10	西洋医学的な診断術・施術練習
	11	西洋医学的な診断術・施術練習
	12	西洋医学的な診断術・施術練習
	13	西洋医学的な診断術・施術練習
	14	西洋医学的な診断術・施術練習
	15	西洋医学的な診断術・施術練習
	16	西洋医学的な診断術・施術練習
	17	西洋医学的な診断術・施術練習
	18	西洋医学的な診断術・施術練習
	19	西洋医学的な診断術・施術練習
	20	西洋医学的な診断術・施術練習
	21	西洋医学的な診断術・施術練習
	22	西洋医学的な診断術・施術練習
	23	西洋医学的な診断術・施術練習
	24	西洋医学的な診断術・施術練習
	25	まとめ
	26	まとめ
	27	まとめ
	28	まとめ
	29	認定実技試験について
	30	灸実技 失眠への交互施灸
	31	灸実技 交互施灸と八分灸
	32	灸実技 交互施灸と八分灸
	33	灸実技 交互施灸と八分灸 ペアで8分計測
	34	灸実技 交互施灸と八分灸 グループに分かれて実施
	35	灸実技 交互施灸と八分灸 グループに分かれて実施
	36	灸実技 リハビリ（脳卒中）
	37	灸実技 リハビリ（脊髄損傷）
	38	灸実技 リハビリ（脳性麻痺）
	39	灸実技 リハビリ（切断）
	40	灸実技 リハビリ（整形外科疾患）
	41	灸実技 リハビリ（パーキンソン）
	42	灸実技 リハビリ（呼吸器疾患）
	43	灸実技 リハビリ（心疾患）
	44	まとめ
	45	まとめ
	46	まとめ
	47	医療面接について（聴取項目等）
	48	血圧測定について（触診法・聴診法等）
	49	徒手検査法（上肢）
	50	徒手検査法（上肢）
	51	徒手検査法（下肢）
	52	徒手検査法（下肢）
	53	ROMについて（ゴニオメーターの使い方）、頸部ROMの測定方法
	54	ROMについて（ゴニオメーターの使い方）、頸部ROMの測定方法

55	腱反射について
56	腱反射について
57	血圧測定・反射の復習
58	徒手検査・ROMの復習
59	血圧測定・反射の復習
60	徒手検査・ROMの復習
61	まとめ
62	テーピングの理論 足関節のテーピング
63	足関節・肘関節・手関節のテーピング
64	足関節・肘関節・手関節のテーピング
65	スポーツ外傷・障害に対する治療法
66	スポーツ外傷・障害に対する治療法
67	スポーツ外傷・障害に対する治療法
68	スポーツ外傷・障害に対する治療法

評価方法		実技試験による評価	
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	単位不認定
使用教材		滋慶認定実技審査対応　ずっと使える！鍼灸臨床BOOK	
備考			

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名	応用鍼灸実技Ⅱ				学年	3	
講師名	江口瓊・水森貴子・常通道夫	時間数	270	単位数	6	コマ数	135
教科目標							
基礎から応用までの理論と実際を鍼灸を含め、総合的な手技療法を学ぶ。 ※実務経験のある教員等による授業科目となる							
講義内容	1	中医学と言うのは～中医学の歴史と現状 名著作の紹介、中医学の継承と発展					
	2	経絡経穴とは？正確な取穴法とは？ 鍼灸業界の言語として、効果を高める					
	3	中国針、棒灸の特徴、臨床応用 「氣至病所」、「得氣」の感覚と効果					
	4	火罐(吸玉)療法について 火罐の歴史・効能・操作・注意事項					
	5	常用穴の取穴と刺針の復習 ①首と肩部位					
	6	実技：風池・天柱・完骨・肩井・曲垣・天宗・巨骨・肩貞・肩中俞・肩外俞・大杼					
	7	常用穴の取穴と刺針の復習 ②上肢部					
	8	実技：肩髃・肩髃・臂臑・曲池・尺沢・孔最手三里・列缺・外関・合谷・神門					
	9	常用穴の取穴と刺針の復習 ③顔面部					
	10	実技：翳風・太陽・四白・下関・地倉・頬車・頭維・陽白・攢竹・迎香・印堂・人中					
	11	常用穴の取穴と刺針の復習 ④腰・臀・大腿部					
	12	実技：腎俞・大腸俞・小腸俞・腰眼・腰陽関・秩辺・環跳・阿是穴・承扶・殷門					
	13	常用穴の取穴と刺針の復習 ⑤膝から足					
	14	実技：血海・梁丘・鶴頂・陰陵泉・陽陵泉・曲泉・膝眼・足三里・三陰交・丘墟					
	15	常用穴の取穴と刺針の復習 ⑥胸腹部					
	16	実技：天突・膻中・巨闕・中脘・関元・中府・天枢・期門・章門・廉泉・扶突・大横					
	17	実技：天突・膻中・巨闕・中脘・関元・中府・天枢・期門・章門・廉泉・扶突・大横					
	18	痺証について(痛、しびれ、腫脹、変形、障害)：「風寒湿三氣雜至合而為痺也」、特徴					
	19	痺証について(痛、しびれ、腫脹、変形、障害)：「風寒湿三氣雜至合而為痺也」、特徴					
	20	痺証の臨床応用 ①寝違い(風寒痺証)：実例の紹介、選穴や治療方法、注意事項					
	21	痺証の臨床応用 ①寝違い(風寒痺証)：実例の紹介、選穴や治療方法、注意事項					
	22	痺証の臨床応用 ②肩こりの原因は色々ある、辨証論治を基本とした治療法とは・・・					
	23	痺証の臨床応用 ②肩こりの原因は色々ある、辨証論治を基本とした治療法とは・・・					
	24	実技：肩こりについて辨証論治に基づく選穴、刺鍼法、注意事項					
	25	実技：肩こりについて辨証論治に基づく選穴、刺鍼法、注意事項					
	26	痺証の臨床応用 ③五十肩(肩関節痛、頸肩腕痛、上肢痛)の鍼灸治療について					
	27	痺証の臨床応用 ③五十肩(肩関節痛、頸肩腕痛、上肢痛)の鍼灸治療について					
	28	実技：実例の紹介。問診・カルテ記入、辨証論治に基づく選穴、刺鍼法、注意事項					
	29	実技：実例の紹介。問診・カルテ記入、辨証論治に基づく選穴、刺鍼法、注意事項					
	30	痺証の臨床応用 ④リウマチ(風寒痺証)					
	31	痺証の臨床応用 ④リウマチ(風寒痺証)					
	32	実技：実例の紹介。問診・カルテ記入、辨証論治に基づく選穴、刺鍼法、注意事項					
	33	実技：実例の紹介。問診・カルテ記入、辨証論治に基づく選穴、刺鍼法、注意事項					
	34	痺証の臨床応用 ⑤腰下肢痛(腎虚、寒痺証)					
	35	痺証の臨床応用 ⑤腰下肢痛(腎虚、寒痺証)					
	36	実技：実例の紹介。問診・カルテ記入、辨証論治に基づく選穴、刺鍼法、注意事項					
	37	実技：実例の紹介。問診・カルテ記入、辨証論治に基づく選穴、刺鍼法、注意事項					
	38	痺証の臨床応用 ⑥下肢痛(坐骨神経痛)					
	39	痺証の臨床応用 ⑥下肢痛(坐骨神経痛)					
	40	実技：実例の紹介。問診・カルテ記入、辨証論治に基づく選穴、刺鍼法、注意事項					
	41	実技：実例の紹介。問診・カルテ記入、辨証論治に基づく選穴、刺鍼法、注意事項					
	42	痺証の臨床応用 ⑦膝痛様々な原因と症状の鑑別基準と経絡経穴の選び方。					
	43	痺証の臨床応用 ⑦膝痛様々な原因と症状の鑑別基準と経絡経穴の選び方。					
	44	実技：辨証論治に基づく選穴、刺鍼法、注意事項					
	45	実技：辨証論治に基づく選穴、刺鍼法、注意事項					
		試験					
	46	糖尿病について：西洋医学の診断基準と中医学の辨証論治法と経穴の選び方。					
	47	実技：弁証論治に基づく選穴、刺鍼法、注意事項					
	48	婦人科について：生理不順・生理痛・不妊症・不正出血などの辨証論治方					
	49	実技：実際の症例を検討し、弁証論治に基づく選穴、刺鍼法、注意事項					
	50	自律神経失調症について：更年期障害・不眠症・冷え性・めまい耳鳴・突発難聴・不安などの治療法					
	51	実技：実際の症例を検討し、弁証論治に基づく選穴、刺鍼法、注意事項					
	52	顔面痛と顔面麻痺について					
53	実技：実際の症例を検討し、弁証論治に基づく選穴、刺鍼法、注意事項						

	54	中風後遺症について：鍼灸治療の役割と体針の取穴法とパルスの応用
	55	中風後遺症の頭皮針の取穴法、刺入法
	56	耳針について：耳針の考え方、取穴法、治療法
	57	実技：操作と弁証論治に基づく選穴、刺鍼法、注意事項
	58	鍼灸で急症の応用：生活中でよくみられる症状の応急手当の取穴と刺鍼法
	59	実技：操作と刺鍼法、注意事項
	60	まとめ
		試験
	61	オリエンテーション(講義内容・目標などの説明)
	62	オリエンテーション(講義内容・目標などの説明)
	63	治療デモ見学
	64	治療デモ見学
	65	灸施術のスキルチェック
	66	灸施術のスキルチェック
	67	鍼刺入スキルチェック
	68	鍼刺入スキルチェック
	69	【灸練習】(紙…透熱灸15壮/分・八分灸3壮/分)
	70	【灸練習】(紙…透熱灸15壮/分・八分灸3壮/分)
	71	体表解剖復習
	72	体表解剖復習
	73	【灸練習】(紙…透熱灸15壮/分・八分灸3壮/分)
	74	【灸練習】(紙…透熱灸15壮/分・八分灸3壮/分)
	75	手の陰経・要穴(原・郄・絡・合)の取穴実習 (人体…失眠交互施灸・八分灸)
	76	手の陰経・要穴(原・郄・絡・合)の取穴実習 (人体…失眠交互施灸・八分灸)
	77	【灸練習】(紙…透熱灸15壮/分・八分灸3壮/分)
	78	【灸練習】(紙…透熱灸15壮/分・八分灸3壮/分)
	79	手の陽経・要穴(原・郄・絡・合)の取穴実習 (人体…失眠交互施灸・八分灸)
	80	手の陽経・要穴(原・郄・絡・合)の取穴実習 (人体…失眠交互施灸・八分灸)
講 義 内 容	81	【灸練習】要穴の取穴・人体への施灸実習
	82	【灸練習】要穴の取穴・人体への施灸実習
	83	足の陰経・要穴(原・郄・絡・合)の取穴実習 (人体…失眠交互施灸・八分灸)
	84	足の陰経・要穴(原・郄・絡・合)の取穴実習 (人体…失眠交互施灸・八分灸)
	85	【灸練習】要穴の取穴・人体への施灸実習
	86	【灸練習】要穴の取穴・人体への施灸実習
	87	足の陽経・要穴(原・郄・絡・合)の取穴実習 (人体…失眠交互施灸・八分灸)
	88	足の陽経・要穴(原・郄・絡・合)の取穴実習 (人体…失眠交互施灸・八分灸)
	89	【灸練習】要穴の取穴・人体への施灸実習
	90	【灸練習】要穴の取穴・人体への施灸実習
	91	【灸練習】要穴の取穴・人体への施灸実習
	92	【灸練習】要穴の取穴・人体への施灸実習
	93	要穴(原・郄・絡・合)の取穴実技テスト
	94	要穴(原・郄・絡・合)の取穴実技テスト
	95	【灸練習】鍼管あり(トイレットペーパーへの刺入)/鍼管なし(委中への刺入)押入法の解説・デモ・実習
	96	【灸練習】鍼管あり(トイレットペーパーへの刺入)/鍼管なし(委中への刺入)押入法の解説・デモ・実習
	97	反応点の種類と探査方法の解説・切診(脈診・腹診・切経)の解説・デモ
	98	反応点の種類と探査方法の解説・切診(脈診・腹診・切経)の解説・デモ
	99	【灸練習】切診(脈診・腹診・切経)の実習、鍼管なし(委中への刺入)の実習
	100	【灸練習】切診(脈診・腹診・切経)の実習、鍼管なし(委中への刺入)の実習
	101	鍼管なし(委中への刺入)の実習・切経による反応点(指標)の探査の解説・デモ
	102	鍼管なし(委中への刺入)の実習・切経による反応点(指標)の探査の解説・デモ
	103	【灸練習】気の世界と人体における気の世界の概念の解説、脈診(六部定位脈診)の解説・デモ
	104	【灸練習】気の世界と人体における気の世界の概念の解説、脈診(六部定位脈診)の解説・デモ
	105	脈診(六部定位脈診)の実習
	106	脈診(六部定位脈診)の実習
	107	【灸練習】腹部接触鍼の解説・デモ、実習(てい鍼・豪鍼)
	108	【灸練習】腹部接触鍼の解説・デモ、実習(てい鍼・豪鍼)
	109	腹診・脈診と腹部接触鍼後変化の解説・デモ、確認の実習
	110	腹診・脈診と腹部接触鍼後変化の解説・デモ、確認の実習
	111	【灸練習】脈の調整(原穴の意味)の解説・デモ
	112	【灸練習】脈の調整(原穴の意味)の解説・デモ
	113	脈診と原穴・69難による脈の調整(五行穴の意味)の実習
	114	脈診と原穴・69難による脈の調整(五行穴の意味)の実習

115	脈診と原穴・69難による脈の調整(五行穴の意味)の実習
116	脈診と原穴・69難による脈の調整(五行穴の意味)の実習
117	まとめ
118	まとめ
119	まとめ
120	まとめ
121	試験
122	東概第5章講義&実技 九鍼・九刺・十二刺
123	五刺・三刺・治療の禁忌
124	八法・鍼灸補瀉(六十九難実技)
125	十七手技と撮診
126	九刺(巨刺と遠道刺の応用)
127	候背診の応用
128	撮診と八会穴の応用
129	腹診と対極療法(鍼編)
130	腹診と対極療法(灸編)
131	奇経治療
132	耳鍼・頭鍼治療
133	八綱診断と治療
134	本治と標治
135	本治と標治
135	まとめ
	終講時試験

評価方法		実技試験による評価	
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	単位不認定
使用教材		滋慶認定実技審査対応　ずっと使える！鍼灸臨床BOOK	
備考			

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		臨床実習Ⅰ				学年	2	
講師名			時間数	90	単位数	2	コマ数	45
授業概要、到達目標								
2回にわたるサポート(陸上)における実習で、患者への気配りや対応、運営方法を学び、治療院における実習で、患者への気配りや対応、運営方法を学ぶ。								
講義内容	1～45	外部実習・治療院実習						
評価方法		出席・日誌提出による評価						
評価基準	GPA評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定	
使用教材								
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		臨床実習Ⅱ				学年	3		
講師名				時間数	90	単位数	2	コマ数	45
授業概要、到達目標									
治療院等における実習で、患者への気配りや対応、運営方法を学ぶ。									
講 義 内 容	1～45	外部実習・治療院実習							
評価方法		出席・日誌提出による評価							
評 価 基 準	G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						単位認定	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						単位認定	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						単位不認定	
使用教材									
備考									

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

[illegible]

評価方法		出席・課題による評価	
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	単位不認定
使用教材			
備考			

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

[illegible]

評価方法		出席・課題による評価	
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	単位不認定
使用教材			
備考			

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		総合領域Ⅲ				学年	3	
講師名		時間数	150	単位数	5	コマ数	75	
授業概要、到達目標								
3年間の集大成としての卒業論文を作成し，鍼灸師としての臨床につなげていく。								
講 義 内 容	1～15	卒業研究・論文作成						
		卒業論文発表						
	16～75	総合学習						
	評価方法		出席・課題による評価					
	評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定			
C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定			
D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定			
F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定			
使用教材								
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		応用演習				学年	3
講師名		時間数	60	単位数	2	コマ数	30
授業概要、到達目標							
全教科を通じてはり師・きゅう師としての知識を深める。							
講 義 内 容	1	第1回 演習問題と解説					
	2	第1回 演習問題と解説					
	3	第2回 演習問題と解説					
	4	第2回 演習問題と解説					
	5	第3回 演習問題と解説					
	6	第3回 演習問題と解説					
	7	第4回 演習問題と解説					
	8	第4回 演習問題と解説					
	9	第5回 演習問題と解説					
	10	第5回 演習問題と解説					
	11	第6回 演習問題と解説					
	12	第6回 演習問題と解説					
	13	第7回 演習問題と解説					
	14	第7回 演習問題と解説					
	15	第8回 演習問題と解説					
	16	第8回 演習問題と解説					
	17	第9回 演習問題と解説					
	18	第9回 演習問題と解説					
	19	第10回 演習問題と解説					
	20	第10回 演習問題と解説					
	21	第11回 演習問題と解説					
	22	第11回 演習問題と解説					
	23	第12回 演習問題と解説					
	24	第12回 演習問題と解説					
	25	第13回 演習問題と解説					
	26	第13回 演習問題と解説					
	27	第14回 演習問題と解説					
	28	第14回 演習問題と解説					
	29	第15回 演習問題と解説					
	30	第15回 演習問題と解説					
	終講時試験(卒業試験)						
評価方法		出席・筆記試験による評価					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材							
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		トレーニング演習Ⅰ				学年	1
講師名		時間数	60	単位数	2	コマ数	30
授業概要、到達目標							
スポーツ指導者としてコーチングに携わる者が、プレーヤーの多様なニーズに応えられるコーチングスキルを身に付ける方法を理解する。							
講 義 内 容	1	コーチングとコーチの定義					
	2	プレーヤーズスタンダードコーチング					
	3	コーチに求められる役割					
	4	コーチに求められる知識とスキル					
	5	対他者力を磨こう(コミュニケーションスキル)					
	6	対他者力を磨こう(コミュニケーションスキル)					
	7	対他者力を磨こう(リーダーシップスキル)					
	8	対他者力を磨こう(リーダーシップスキル)					
	9	対他者力を磨こう(プレゼンテーションスキル)					
	10	対他者力を磨こう(プレゼンテーションスキル)					
	11	対他者力を磨こう(ファシリテーションスキル)					
	12	対他者力を磨こう(ファシリテーションスキル)					
	13	対自己力を磨こう					
	14	対自己力を磨こう					
	15	スポーツの意義と価値					
	16	社会の中におけるスポーツの価値					
	17	文化としてのスポーツ					
	18	スポーツの価値を守るスポーツ権					
	19	スポーツの自治ーガバナンスとコンプライアンスー					
	20	暴力・ハラスメントの根絶					
	21	スポーツのイングリティ					
	22	スポーツ指導者の法的責任					
	23	スポーツ仲裁					
	24	スポーツ倫理					
	25	時代をリードするコーチング					
	26	時代をリードするコーチング					
	27	スポーツ組織のマネジメント					
	28	スポーツ組織のマネジメント					
	29	障がい者とスポーツ					
	30	障がい者とスポーツ					
評価方法		筆記試験による評価					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				単位認定	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				単位認定	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				単位不認定	
使用教材		リファレンスブック					
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		トレーニング演習Ⅱ				学年	2
講師名		時間数	30	単位数	1	コマ数	15
授業概要、到達目標							
コーチング環境の理解とスポーツトレーニングの基本的な考え方、身体のしくみと働きを学ぶ。							
講 義 内 容	1	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系					
	2	トレーニング目標論・手段・方法論					
	3	トレーニング計画論、試合行動論					
	4	トレーニングアセスメント					
	5	バッテリーテスト・新体力テスト					
	6	トレーニングと栄養のバランス					
	7	身体のしくみと働き(神経・骨格筋)					
	8	身体のしくみと働き(骨格・関節)					
	9	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給					
	10	運動のためのエネルギー供給・体力を構成する要素の体系					
	11	コーチング環境の特徴(ジュニア)					
	12	運動部活動でのコーチングの留意点					
	13	性別の考慮					
	14	ハイパフォーマンスにおけるコーチング					
	15	ハイパフォーマンスにおけるコーチング					
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		筆記試験による評価					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材		リファレンスブック					
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		トレーニング演習Ⅲ				学年	2
講師名		時間数	30	単位数	1	コマ数	15
授業概要、到達目標 筋力・パワー・スピードトレーニングを実践しトレーニングのプログラムを学ぶ。							
講 義 内 容	1	スポーツバイオメカニクス					
	2	ウォーミングアップと柔軟性トレーニング					
	3	トレーニングの種類・トレーニングの原理・原則					
	4	全身持久力トレーニングの実践					
	5	スピード・インターバルトレーニングの実践					
	6	スピードトレーニングの実践					
	7	レペティショントレーニングの実践					
	8	筋力トレーニングの実践					
	9	筋力トレーニングの実践					
	10	パワートレーニングの実践					
	11	パワートレーニングの実践					
	12	筋持久力トレーニングの実践					
	13	筋持久力トレーニングの実践					
	14	スキルトレーニング					
	15	スキルトレーニング					
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		筆記試験による評価					
評 価 基 準	G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材		リファレンスブック トレーニング指導者テキスト 理論・応用					
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		スポーツ医学				学年	1	
講師名			時間数	15	単位数	1	コマ数	8
授業概要、到達目標								
スポーツ現場で起こりうるケガや外傷・障害とコンディショニングの手法と救急処置を理解する。								
講 義 内 容	1	スポーツと健康・アスリートの健康管理						
	2	アスリートの内科的障害と対策						
	3	女性アスリートの障害と対策						
	4	スポーツによる精神障害と対策						
	5	外傷・障害の予防						
	6	コンディショニングの手法						
	7	コンディショニングの手法						
	8	救急処置						
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
	16							
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30							
評価方法								
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定	
使用教材		リファレンスブック						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		動作分析入門				学年	1
講師名		時間数	60	単位数	2	コマ数	30
授業概要、到達目標							
情報収集と分析の方法、統計について学び、分析・解析ソフトを活用できるようになる。							
講 義 内 容	1	ガイダンス①					
	2	ガイダンス②					
	3	アプリでお手軽分析① 動作分析					
	4	アプリでお手軽分析② 動作分析					
	5	映像撮影のガイドライン①					
	6	映像撮影のガイドライン②					
	7	映像を別の始点で分析する①					
	8	映像を別の視点で分析する②					
	9	動作分析の基本① 定量分析					
	10	動作分析の基本② スティルショット分析					
	11	動作分析の基本③ 比較分析					
	12	動作分析の基本④ プレゼンテーション					
	13	動作分析の応用① トラッキング					
	14	動作分析の応用② トラッキング分析					
	15	動作分析の応用③ 外部データインポート					
	16	センサーを使用しない3次元的分析表現					
	17	プレゼン発表					
	18	プレゼン発表					
	19	動作分析理解度確認チェック					
	20	答え合わせ、問題の解説					
	21	表記分析の基本①					
	22	グループワーク①					
	23	グループワーク②					
	24	アプリでお手軽分析③ 表記分析					
	25	アプリでお手軽分析④ 表記分析					
	26	アプリでお手軽分析⑤ 表記分析					
	27	表記分析の基本②					
	28	表記分析の基本③					
	29	表記分析理解度確認チェック					
	30	答え合わせ、問題の解説					
評価方法		筆記試験による評価					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				単位認定	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				単位認定	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				単位不認定	
使用教材							
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名	動作分析応用					学年	2
講師名		時間数	60	単位数	2	コマ数	30
授業概要、到達目標							
情報収集と分析の方法、統計について学び、分析・解析ソフトを活用できるようになる。							
講 義 内 容	1	ガイダンス①					
	2	ガイダンス②					
	3	動作分析 定量分析					
	4	動作分析 定量分析					
	5	動作分析 定量分析					
	6	動作分析 定量分析					
	7	プレゼンテーション					
	8	プレゼンテーション					
	9	動作分析 スティルショット分析					
	10	動作分析 スティルショット分析					
	11	動作分析 スティルショット分析					
	12	動作分析 スティルショット分析					
	13	プレゼンテーション					
	14	プレゼンテーション					
	15	動作分析の応用 トラッキング分析					
	16	動作分析の応用 トラッキング分析					
	17	動作分析の応用 トラッキング分析					
	18	動作分析の応用 トラッキング分析					
	19	動作分析の応用 トラッキング分析					
	20	動作分析の応用 トラッキング分析					
	21	プレゼンテーション					
	22	プレゼンテーション					
	23	課題演習					
	24	課題演習					
	25	課題演習					
	26	課題演習					
	27	課題演習					
	28	課題演習					
	29	プレゼンテーション					
	30	プレゼンテーション					
評価方法		出席・課題による評価					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材							
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		バイオメカニクス I				学年	1
講師名		時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
データ分析の流れを理解し、統計学の基礎を学び、データの要約、可視化ができるようになる。							
講 義 内 容	1	イントロダクション					
	2	人体の基本構造					
	3	運動学の基礎					
	4	力学の基礎					
	5	人体の力学モデル					
	6	関節のバイオメカニクス					
	7	筋肉のバイオメカニクス					
	8	歩行のバイオメカニクス					
	9	ランニングのバイオメカニクス					
	10	スポーツバイオメカニクス					
	11	バイオメカニクスの測定技術					
	12	バイオメカニクスのデータ分析					
	13	リハビリテーションのバイオメカニクス					
	14	バイオメカニクスの最新研究					
	15	まとめ					
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		筆記試験による評価					
評 価 基 準	G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材							
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		バイオメカニクスⅡ				学年	2	
講師名			時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標								
床反力と関節モーメント、ジャンプ動作を理解し説明ができる。								
講 義 内 容	1	イントロダクション						
	2	人体の動力学						
	3	バイオメカニクスのシミュレーション						
	4	筋骨格システムのモデリング						
	5	筋骨格システムのモデリング						
	6	バイオメカニクスの臨床応用						
	7	バイオメカニクスの臨床応用						
	8	バイオメカニクスの臨床応用						
	9	バイオメカニクスの倫理と安全性						
	10	バイオメカニクスの教育と普及						
	11	バイオメカニクスの未来						
	12	バイオメカニクスのプロジェクト						
	13	バイオメカニクスのプロジェクト						
	14	バイオメカニクスのプロジェクト						
	15	まとめ						
	16							
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30							
評価方法		筆記試験による評価						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定	
使用教材								
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		アナリティクス概論 I				学年	2
講師名		時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
データ分析の流れを理解し、統計学の基礎を学び、データの要約、可視化ができるようになる。							
講 義 内 容	1	イントロダクション					
	2	データの種類と収集方法					
	3	データの前処理					
	4	データの可視化					
	5	記述統計					
	6	確率と分布					
	7	推測統計					
	8	仮設検定					
	9	回帰分析					
	10	時系列分析					
	11	クラスタリング					
	12	アソシエーション分析					
	13	テキストアナリティクス					
	14	ソーシャルネットワーク分析					
	15	まとめ					
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		筆記試験による評価					
評 価 基 準	G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材							
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		アナリティクス概論Ⅱ				学年	2
講師名		時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
各競技アスリートのパフォーマンスの基礎を学び、動作分析・提案ができるようになる。							
講 義 内 容	1	イントロダクション					
	2	各種スポーツのデータの収集と分析・プレゼンテーション					
	3	各種スポーツのデータの収集と分析・プレゼンテーション					
	4	各種スポーツのデータの収集と分析・プレゼンテーション					
	5	各種スポーツのデータの収集と分析・プレゼンテーション					
	6	各種スポーツのデータの収集と分析・プレゼンテーション					
	7	各種スポーツのデータの収集と分析・プレゼンテーション					
	8	各種スポーツのデータの収集と分析・プレゼンテーション					
	9	各種スポーツのデータの収集と分析・プレゼンテーション					
	10	各種スポーツのデータの収集と分析・プレゼンテーション					
	11	各種スポーツのデータの収集と分析・プレゼンテーション					
	12	各種スポーツのデータの収集と分析・プレゼンテーション					
	13	各種スポーツのデータの収集と分析・プレゼンテーション					
	14	各種スポーツのデータの収集と分析・プレゼンテーション					
	15	まとめ					
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		筆記試験による評価					
評 価 基 準	G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材							
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		運動器の機能解剖				学年	1
講師名		時間数	30	単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
人体の各部位の基礎解剖学と運動について理解し、運動時に関与する骨、筋、関節、靱帯、神経支配を同定できるように							
講 義 内 容	1	人体の構造と機能を理解する					
	2	頸部、腰、背部の靱帯、関節の構造と機能について学ぶ					
	3	頸部、腰、背部の関節の運動について学ぶ					
	4	肩・上腕の靱帯、関節の構造と機能について学ぶ					
	5	肩・上腕の関節の運動について学ぶ					
	6	肘、前腕、手、指の靱帯、関節の構造と機能について学ぶ					
	7	肘、前腕、手、指の関節の運動について学ぶ					
	8	股関節、大腿の靱帯、関節の構造と機能について学ぶ					
	9	股関節、大腿の関節の運動について学ぶ					
	10	下腿、足関節、足、指の靱帯、関節の構造と機能について学ぶ					
	11	下腿、足関節、足、指の関節の運動について学ぶ					
	12	膝の靱帯、関節の構造と機能について学ぶ					
	13	膝の関節の運動について学ぶ					
	14	まとめ					
	15	まとめ					
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		筆記試験による評価					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				単位認定	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				単位認定	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				単位不認定	
使用教材							
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名	メディア演習					学年	1
講師名		時間数	60	単位数	2	コマ数	30
授業概要、到達目標							
動作分析のための映像、デジタルメディアの制作方法を学び、プロジェクトワークを通じて提案できる							
講 義 内 容	1	イントロダクション					
	2	メディアリテラシー					
	3	メディア制作の基礎					
	4	メディア制作の基礎					
	5	メディア制作の基礎					
	6	映像制作の基礎					
	7	映像制作の基礎					
	8	映像制作の基礎					
	9	デジタルメディアの基礎					
	10	デジタルメディアの基礎					
	11	デジタルメディアの基礎					
	12	ソーシャルメディアの基礎					
	13	ソーシャルメディアの基礎					
	14	メディアの倫理と法規					
	15	メディア分析と評価					
	16	メディア分析と評価					
	17	プロジェクトワーク					
	18	プロジェクトワーク					
	19	プロジェクトワーク					
	20	プロジェクトワーク					
	21	プロジェクトワーク					
	22	プロジェクトワーク					
	23	プロジェクトワーク					
	24	プロジェクトワーク					
	25	プレゼンテーション					
	26	プレゼンテーション					
	27	プレゼンテーション					
	28	プレゼンテーション					
	29	プレゼンテーション					
	30	まとめ					
評価方法		出席・課題による評価					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材		各種機器					
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		コンディショニング演習Ⅰ				学年	1	
講師名			時間数	30	単位数	1	コマ数	15
授業概要、到達目標								
コンディショニングの目的を理解し身体的、環境的、心因的因子を理解する。必要なストレッチングとスポーツマッサージの技術を習得する。								
講 義 内 容	1	コンディショニングの目的・要素・評価法						
	2	トレーニング計画とコンディショニング						
	3	ウォーミングアップ・クーリングダウン意義・目的・方法を理解し、実技を通して体得する。						
	4	ストレッチングの意義・目的を理解する						
	5	下肢ストレッチング①						
	6	下肢ストレッチング②						
	7	股関節周辺・腰臀部のストレッチング						
	8	体幹部のストレッチング						
	9	上肢・頸部・頭部ストレッチング						
	10	テーピングの定義と目的を理解する						
	11	テーピングを実施する際の準備と注意事項を理解する①						
	12	足関節捻挫に対するテーピング(基本のテーピング)技術を習得する①						
	13	足関節捻挫に対するテーピング(基本のテーピング)技術を習得する①						
	14	下腿部肉離れ・シンスプリントのテーピング技術を習得する						
	15	下腿部肉離れ・シンスプリントのテーピング技術を習得する						
	16							
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30							
評価方法		実技試験による評価						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						単位不認定
使用教材								
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		コンディショニング演習Ⅱ				学年	2
講師名		時間数	30	単位数	1	コマ数	15
授業概要、到達目標							
競技者のパフォーマンスを安定させるためにも外傷予防、応急処置、再発予防に備えた身体各部のテーピングの知識と技術を習得する。							
講 義 内 容	1	腰部のテーピング技術を習得する					
	2	腰部のテーピング技術を習得する					
	3	膝関節に対するテーピング技術を習得する①					
	4	膝関節に対するテーピング技術を習得する②					
	5	膝関節に対するテーピング技術を習得する③					
	6	膝関節に対するテーピング技術を習得する④					
	7	まとめ					
	8	キネシオテーピングについて学ぶ①					
	9	キネシオテーピングについて学ぶ②					
	10	キネシオテーピングについて学ぶ③					
	11	キネシオテーピングについて学ぶ④					
	12	キネシオテーピングについて学ぶ⑤					
	13	キネシオテーピングについて学ぶ⑥					
	14	キネシオテーピングについて学ぶ⑦					
	15	キネシオテーピングについて学ぶ⑧					
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		実技試験による評価					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材							
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		プログラマー演習					学年	2
講師名		時間数		60	単位数	2	コマ数	30
授業概要、到達目標								
スポーツ指導者としてコーチングに携わる者が、プレーヤーの多様なニーズに応えられるコーチングスキルを身に付ける方法を理解する。								
講 義 内 容	1	スポーツプログラマーの役割と運動と健康						
	2	ウォーミングアップとクーリングダウン						
	3	ウォーミングアップとクーリングダウン						
	4	全身持久力・身体組織系						
	5	筋力/筋持久力系						
	6	柔軟性と調整力						
	7	ストレッチング						
	8	体操						
	9	ストレッチング						
	10	ウォーキング						
	11	ジョギング						
	12	エアロビクスダンス						
	13	エアロビクスダンス						
	14	レクリエーション(軽スポーツ)						
	15	レクリエーション(運動ゲーム)						
	16	壮年(中年)高齢者のフィットネスプログラム						
	17	壮年(中年)高齢者のフィットネスプログラム						
	18	壮年(中年)高齢者のフィットネスプログラム						
	19	女性と障がい者のフィットネスプログラム						
	20	女性と障がい者のフィットネスプログラム						
	21	女性と障がい者のフィットネスプログラム						
	22	体調チェックの意義とスポーツと疲労回復(栄養と休養)						
	23	体力測定の方法と測定結果の処理						
	24	体力評価とスポーツプログラム						
	25	スポーツ相談の意義						
	26	スポーツ相談の技術						
	27	スポーツ相談の実際						
	28	プログラム演習						
	29	プログラム演習						
	30	プログラム演習						

評価方法		出席・筆記試験による評価						
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						単位不認定
使用教材		リファレンスブック						
備考								

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		スポーツ現場実習 I				学年	1
講師名		時間数	30	単位数	1	コマ数	15
授業概要、到達目標							
実際のスポーツ現場での経験を通じて、幅広い実践的なスキルを習得する							
講 義 内 容	1	スポーツ現場実習					
	2	スポーツ現場実習					
	3	スポーツ現場実習					
	4	スポーツ現場実習					
	5	スポーツ現場実習					
	6	スポーツ現場実習					
	7	スポーツ現場実習					
	8	スポーツ現場実習					
	9	スポーツ現場実習					
	10	スポーツ現場実習					
	11	スポーツ現場実習					
	12	スポーツ現場実習					
	13	スポーツ現場実習					
	14	スポーツ現場実習					
	15	スポーツ現場実習					
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		出席・課題による評価					
評 価 基 準	G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材							
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名	スポーツ現場実習Ⅱ					学年	2
講師名		時間数	60	単位数	2	コマ数	30
授業概要、到達目標							
実際のスポーツ現場での経験を通じて、幅広い実践的なスキルを習得する							
講 義 内 容	1	スポーツ現場実習					
	2	スポーツ現場実習					
	3	スポーツ現場実習					
	4	スポーツ現場実習					
	5	スポーツ現場実習					
	6	スポーツ現場実習					
	7	スポーツ現場実習					
	8	スポーツ現場実習					
	9	スポーツ現場実習					
	10	スポーツ現場実習					
	11	スポーツ現場実習					
	12	スポーツ現場実習					
	13	スポーツ現場実習					
	14	スポーツ現場実習					
	15	スポーツ現場実習					
	16	スポーツ現場実習					
	17	スポーツ現場実習					
	18	スポーツ現場実習					
	19	スポーツ現場実習					
	20	スポーツ現場実習					
	21	スポーツ現場実習					
	22	スポーツ現場実習					
	23	スポーツ現場実習					
	24	スポーツ現場実習					
	25	スポーツ現場実習					
	26	スポーツ現場実習					
	27	スポーツ現場実習					
	28	スポーツ現場実習					
	29	スポーツ現場実習					
	30	スポーツ現場実習					
評価方法		出席・課題による評価					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材							
備考							

＜鍼灸師学科・スポーツ鍼灸アナリスト学科 シラバス＞

科目名		スポーツ現場実習Ⅲ				学年	3
講師名		時間数	60	単位数	2	コマ数	30
授業概要、到達目標 実際のスポーツ現場での経験を通じて、幅広い実践的なスキルを習得する							
講 義 内 容	1	スポーツ現場実習					
	2	スポーツ現場実習					
	3	スポーツ現場実習					
	4	スポーツ現場実習					
	5	スポーツ現場実習					
	6	スポーツ現場実習					
	7	スポーツ現場実習					
	8	スポーツ現場実習					
	9	スポーツ現場実習					
	10	スポーツ現場実習					
	11	スポーツ現場実習					
	12	スポーツ現場実習					
	13	スポーツ現場実習					
	14	スポーツ現場実習					
	15	スポーツ現場実習					
	16	スポーツ現場実習					
	17	スポーツ現場実習					
	18	スポーツ現場実習					
	19	スポーツ現場実習					
	20	スポーツ現場実習					
	21	スポーツ現場実習					
	22	スポーツ現場実習					
	23	スポーツ現場実習					
	24	スポーツ現場実習					
	25	スポーツ現場実習					
	26	スポーツ現場実習					
	27	スポーツ現場実習					
	28	スポーツ現場実習					
	29	スポーツ現場実習					
	30	スポーツ現場実習					
評価方法		出席・課題による評価					
評価基準	G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					単位認定
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					単位認定
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					単位不認定
使用教材							
備考							